

疾患の治療と看護Ⅶ	2年・後期	1単位 15時間	教授 本吉美也子他
科目カテゴリー	看護の対象理解	科目ナンバリング	32210372

1. 授業のねらい・概要

疾患の治療と看護Ⅶでは、学生が「腎・泌尿器」と「産婦人科」疾患の治療と看護の知識を身につけ、これらの疾患患者に対して根拠に基づいた看護を実践できる能力を養うことを目的とする。

2. 学修の到達目標

1. 主な腎・泌尿器疾患の病態生理，症状，検査，治療について説明できる。（D-2）
2. 末期腎不全の治療としての血液透析，腹膜透析，腎移植の特徴と違いについて説明できる。（D-2）
3. 腎・泌尿器疾患患者の看護を理解し，患者に必要な生活上の留意点について説明できる。（D-2）
4. 女性生殖器系の構造と機能について説明できる。（D-2）
5. 妊娠・分娩・産褥の経過と看護について説明できる。（D-2）
6. 生殖器系の疾患の病態と診断・治療・看護について説明できる。（D-2）
7. 性感染症の診断・治療，妊娠期の感染症と看護について説明できる。（D-2）

3. 授業の進め方

テキストに基づいた講義を中心に進める。

【アクティブラーニング実施の有無】

アクティブラーニングとして授業前の小テストおよび授業後のリアクションペーパーによるリフレクションをおこなう。

【ICT活用の有無】

ICT活用の実施：Googleclassroom・Gmail等による学習課題や教材の提示。

4. 授業計画（講義）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	腎疾患の診断と治療① 腎臓の機能と検査・腎不全	講義	予習：教科書[8] P23を読み腎臓の機能の主な機能3つについて確認しておく。 復習：授業で解いた国家試験問題を復習する。	本吉美也子
2	腎疾患の診断と治療② 主な腎疾患の診断・治療	講義	予習：教科書[8]P117を読みネフローゼ症候群の診断基準4項目を確認しておく。 復習授業で解いた国家試験問題を復習する。	本吉
3	泌尿器の機能と主な疾患の診断・治療	講義	予習：教科書[8]P32～33尿道の構造と機能を読み男性と女性の尿道の長さの違いを確認しておく。 復習授業で解いた国家試験問題を復習する。	本吉

4	腎・泌尿器疾患患者の看護	講義	予習：教科書[8]P249～250を読み、慢性腎臓病（CKD）患者の看護目標3項目について確認しておく。 復習：CKD患者の生活指導のポイントをまとめる。	本吉
5	産婦人科疾患：女性生殖器系の医療の動向と看護，女性生殖器系の構造と機能	講義	予習：成人看護学[9]p6～18，p20～32を読み、月経周期における性ホルモンの変化について確認しておく。不明点を把握して授業に臨むこと。 復習：月経周期においてどのようなホルモンが関連するか，変化の特徴を図式化して書けるようにしておく。	堀金幸栄
6	産婦人科疾患：妊娠・分娩・産褥の経過と看護	講義	予習：母性看護学[2]P62～550を読み、妊娠高血圧症候群（HDP）の定義および、産科大量出血のリスクにはどのようなものがあるか確認しておく。不明点を把握して授業に臨むこと。 復習：妊娠・分娩・産褥の正常と異常の定義および看護についてまとめる。	堀金
7	産婦人科疾患：生殖器系の疾患の病態と診断・治療・看護	講義	予習：成人看護学[9]P103～147を読み、子宮頸がんの進行期分類と治療法について確認しておく。不明点を把握して授業に臨むこと。 復習：生殖器系の疾患別に病態と診断・治療・看護をまとめる。	堀金
8	産婦人科疾患：性感染症の診断・治療，妊娠期の感染症と看護 定期試験	講義 試験	予習：成人看護学[9]P189～192と母性看護学[2]P390～402を読み、性感染症の種類と病原体，母子感染経路について確認しておく。不明点を把握して授業に臨むこと。 復習：定期試験で曖昧だったところを復習する。	堀金 本吉

5. 成績評価の方法・基準

予習内容の小テストを各授業冒頭に行う（2点×8回＝16点）。

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）の配点は84点（本吉44点，堀金40点）。

小テストの総合点と定期試験の点数の合計で成績を評価し，合格基準（60％）に満たない場合には単位認定はできない。

成績評価は，「2. 学修の到達目標」に示した評価観点毎に，ルーブリック評価とする。ルーブリック評価表に関する詳細は，第1回講義内で別途説明する。定期試験の出題範囲および出題方法等は，事前に口頭で提示する。

6. テキスト・参考文献

- テキスト：1) 大東貴志 他(2025)：系統看護学講座専門分野 成人看護学[8]腎・泌尿器 第16版
医学書院
- 2) 鈴木直 他(2025)：系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学[9]女性生殖器 第16版
医学書院
- 3) 森恵美 他(2026)：系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学[2]母性看護学各論第15版
医学書院

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

シラバスの授業計画の範囲および事前事後学修（学修課題）について，最低90分の予習および復習

を行うこと。

8. 受講上の留意事項

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。授業中，授業に関連する以外の行動は，参加態度として評価対象とするので注意すること。

受講前，受講後も必要に応じて人体の構造と機能Ⅲ・Ⅳ，病理学，臨床検査学の復習をすること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

小テストの解説は講義内で行う。定期試験については終了後に口頭・掲示または Googleclassroom 等を用いて解説する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

医療機関における看護師・助産師としての実務経験を活かして，講義を行う。